



本市では、令和6年度から令和8年度までの3年間、上田小学校区（上田小学校・上田こども園・あゆみ保育園・へいわだい認定こども園）を架け橋プログラムのモデル校区とし、保幼こ小の架け橋期の教育の充実をめざしています。この通信では、モデル校区の取組を紹介していきます。

## 子どもの姿を話しあう

7月16日 上田こども園公開保育事前視察訪問



上田こども園の公開保育に向けて、講師として沖縄女子短期大学名渡山よし乃先生をお招きし、保育環境等の視察を行いました。当日見られた子どもの姿など、名渡山先生から助言がなされました。また、室内外の子どもの姿や遊びのプロセス等、共通理解を図り、共有することができました。



7月30日上田こども園公開保育及び合同研修

参観・職員間で語り合い

当日の公開保育では、全学年の遊びの様子（園庭・室内）を参観しました。参観中に、緊急津波警報が発令され、子ども達は保育教諭の指示の下、落ち着いて避難する姿が見られました。安全確認後、遊びが再開されると、先生やお友達と思いきり遊ぶ子ども達でした。

参観後の合同研修会では、講師である沖縄女子短期大学の名渡山よし乃先生による、「幼児期の育ちから、小学校以降の学びにつながる姿を捉える」をテーマにした上田小学校区の職員へ講話や助言がなされました。参観した子どもの姿をグループごとにディスカッションし、それぞれ感じ取ったことやお互いの幼児・小学校教育について、伝え合う様子が見られました。



参観時間は短くなってしまいましたが、上田小学校教職員の参加により、10グループによる活発な話し合いがなされました。



↑名渡山先生による講話。

先生ご自身の実践を踏まえながら、子ども達の探究する力、遊ぶ力が小学校の学びへつながるなど、幼児教育における遊びの重要性について話されていました。また、幼小接続の意義や校区全体で取り組むことの大切さも改めて学ぶことができました。



通信は、豊見城市 HP に掲載しています。

豊見城市幼児教育センター

